

進化し続ける
東武グループ

Symbol

東京のシンボルとなった
「東京スカイツリー」



Experience

上質な旅体験を提供するフラッグシップ特急
「スペーシア X」のcockpitスイート

Nature

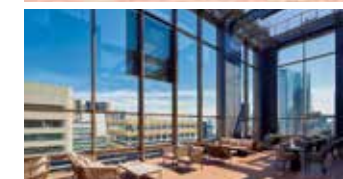
大自然の中に静かに佇むラグジュアリーリゾート
「ザ・リッツ・カールトン日光」



「東京スカイツリー」と「東京ミズマチ」(上)「東京ソラマチ」(下左下右)を含めた東京スカイツリータウンエリアの一体開発で、日本を代表する観光エリアに



「コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル」は正統派のフルサービス型ホテルとして、上質で快適な滞在を提供



「ACホテル・バイ・マリOTT東京銀座」はスペイン発祥のライフスタイルホテルで、モダンかつ洗練されたスタイルが特徴



複合開発された「エキア プレミア和光」と「和光市東武ホテル」(左・右上)、東武動物公園駅西口の商業施設(右下)



「日光金谷ホテル」は明治時代に創業した現存する日本最古のリゾートホテル





地域の伝統工芸品である、
だるまのデザインが施された
「北越谷駅」(左)と高架化
された「竹ノ塚駅」(右)



1都4県という広域なネットワークを特急、通勤車両からSLまで、多種多様な車両が支える



東武鉄道の暮らしのブランド「ソライエ」。「ソライエグ
ラン流山おおたかの森」(左)と「ソライエ清水公園
アーバンパークタウン」(右上・右下)



ネオ・ルネサンス様式の「浅草駅(向かって右)」と駅前の「浅草東武ホテル」



レンガ調のデザインにリニューアルされた「野田市駅」(左)と再開発計画が進む「池袋駅」(右)

目次

[口絵] 進化し続ける東武グループ	2
目次	12
Message「125周年を迎えて」 取締役会長 根津嘉澄	14
Message「発刊にあたって」 取締役社長 都筑 豊	15

Contents 01 100年略史 [1897-1997]

東武鉄道の100年略史	18
-------------	----

Contents 02 25年の歴史 [1997-2022]
— since 1997 —

東武鉄道と東武グループの主な出来事	30
-------------------	----

逆境からの船出

東武は生まれ変わる 「再構築プラン」に挑んだ日々	根津嘉澄社長就任と東武グループ再構築プラン	34
--------------------------	-----------------------	----

本業への回帰と新たな成長戦略

鉄道事業者の使命を体現 相互直通運転とTJライナーの功績	相互直通運転とTJライナー	40
踏切死傷事故を忘れない 原因の徹底分析と安全文化の創造	竹ノ塚踏切事故と安全対策	46
他社との直通運転を通じて日光・鬼怒川、会津の観光需要を喚起	JR相互直通特急とAIZUマウントエクスプレス	50
駅の目的地化を加速させ新たな価値を吹き込む	エキアブランドの浸透	54

創造の時代へ

下町に生まれた天空の電波塔 東京スカイツリータウン開業の舞台裏	東京スカイツリータウンとRising East Project	58
東日本大震災の対応と支援の記録 社会インフラを支える責任	東日本大震災	70
沿線の価値向上に心血を注ぎ持続可能なまちづくりを目指す	ソライエブランドの勃興	74
東武と台湾の観光交流 コロナ禍を経て新たなステージへ	台鉄との連携とインバウンド戦略	78
日光を国際エコリゾートに 価値向上を目指す観光戦略	ザ・リッツ・カールトン日光と新たな日光観光戦略	82
唯一無二の価値を追求し 約50年ぶりにSLが走り出す	SL復活運転	88

社会課題の解決に向けた貢献

グループシナジー創出と沿線価値向上を狙ったM&A	東武トップツアーズの誕生と東武ストアの完全子会社化	94
貨物列車の廃止から時を経て 生まれ変わる輸送サービス	貨物列車の廃止と客貨混載	98
コロナ禍の苦闘3年間 鉄道を守る使命とポイント戦略	コロナ禍の対応とTOBU POINTの開始	102

Top Interview

真面目な社員と築き上げた「最先端」という新たな資産	106
取締役会長 根津嘉澄	

東武鉄道125周年に寄せて

歴史的な転機を乗り越え堅実さに挑戦心を兼ね備えた企業に	110
東武鉄道株式会社 監査役 キッコーマン株式会社 取締役名誉会長 取締役会議長 茂木友三郎	

Contents 03 東武グループの未来

Top Interview

「挑戦」と「協創」で地域と共に持続的発展を目指す	114
取締役社長 都筑 豊	

東武グループが取り組んでいること

開発事業 駅とまちが一体となったまちづくりを推進	118
観光事業 インバウンド需要を収益につなげる戦略を	120
鉄道事業 デジタル技術を活用した鉄道事業に挑戦	121
新規事業 持続的成長に向けて新たな事業領域に挑む	122

協創で未来を築く

三菱地所株式会社 再開発事業部長兼池袋開発推進室長 吉田 誉 様	124
日本政府観光局(JNTO) 理事 伊与田美歴 様	125
公益財団法人鉄道総合技術研究所 研究開発推進部 JR部長 平栗滋人 様	126
株式会社日立製作所 マネージド&プラットフォームサービス事業部 事業部長 石田貴一 様	127

社員が思い描くこれから

次代を担う私たちが創る東武グループの未来	128
未来年表	136

Contents 04 資料編

会社概要	142
役員紹介	144
役員任期一覧	146
東武鉄道路線図	149
数字に見る東武鉄道	150
数字に見る東武グループ	152
東武グループ 主要経営指標の推移(連結)	154
グループ会社の取り組み	156
沿革図	162
年表 1997-2024	163

「東京スカイツリー」「スカイツリー」「東京スカイツリータウン」及び「スカイツリーライン」は東武鉄道株式会社及び東武タワーススカイツリー株式会社の登録商標である。
また、「東京ソラマチ」「東京ミズマチ」及び「すみだリバーウォーク」は、東武鉄道株式会社の登録商標である。

QRコードはデンソーウェーブの登録商標である。

「125周年を迎えて」



YOSHIZUMI NEZU

取締役会長
根津嘉澄

東武鉄道は2022年11月1日に、創立125周年を迎えることができました。これもひとえにお客様、株主様をはじめとする多くの皆様のご支援のたまものと、深く感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。

当社は1897年の創業以来、関東1都4県に路線網を拡げ、今日では463.3kmの鉄路をもって関東圏の交通動脈を担う鉄道会社へと成長いたしました。また、鉄道事業を主軸としつつ、レジャー事業、不動産事業、流通事業など、その時々の方勢や人々のライフスタイルに合わせた生活サービス事業の展開を進めてまいりました。

この25年はバブル崩壊の余韻の残る厳しい時代に始まり、東日本大震災などの難局を乗り越えながら、東武グループのさらなる成長と飛躍を目指し、事業を推進してまいりました。2012年5月22日には世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー」を擁する「東京スカイツリータウン」を開業いたしました。その後も約半世紀ぶりのSLの復活運転や33年ぶりのフラッグシップ特急「スペーシア X」の運行開始、様々な商業施設やホテルの開業など、多くの皆様にご愛顧いただいております。

2023年には都筑社長が就任し、当社は新しいステージを迎えました。引き続き、既存事業の深耕を図りながら新たな事業領域の拡大にも挑んでまいります。今後とも東武鉄道、東武グループに変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

「発刊にあたって」



YUTAKA TSUZUKI

取締役社長
都筑 豊

東武鉄道は2022年11月1日に創立125周年を迎え、この度、これを記念して『東武鉄道 125周年誌』を発刊いたしました。

小誌では直近の25年を中心に、他の鉄道会社との相互直通運転によるネットワークの拡充、東京スカイツリータウンの開業、沿線の重要な経営資源である日光エリアでの観光戦略など、当社のこれまでの取り組みをご紹介します。

また、「東武グループの未来」をテーマに、現在取り組みを進めている新たな事業の意義や、未来の東武グループの姿について社員自らが語り合う企画なども盛り込みました。

近年、人口減少や価値観の多様化、デジタル技術の急速な発展など、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。これらの変化を踏まえ、当社は昨年、10年後を見据えた新たな長期経営ビジョン「挑戦と協創で進化させる社会と沿線」を策定しました。

創業以来培ってきた「安全」「安心」を基盤に、このビジョンに基づき事業を推進していくことで、「東武グループの持続的な成長」と「人にやさしく人と地域が共に輝きつづける社会」の実現を目指し、邁進していく所存です。

小誌を通じ、東武鉄道、東武グループの活動へのご理解を深めていただきますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。発刊のご挨拶とさせていただきます。